

花一会図書館便り

12・1月号（令和4年12月30日発行）

【TEL&FAX】
0136-57-6085
【MAIL】

花一会ホームページ



hanaichie@voice.ocn.ne.jp

【発行】蘭越町花一会図書館



Facebook



Instagram



Twitter

次回予告

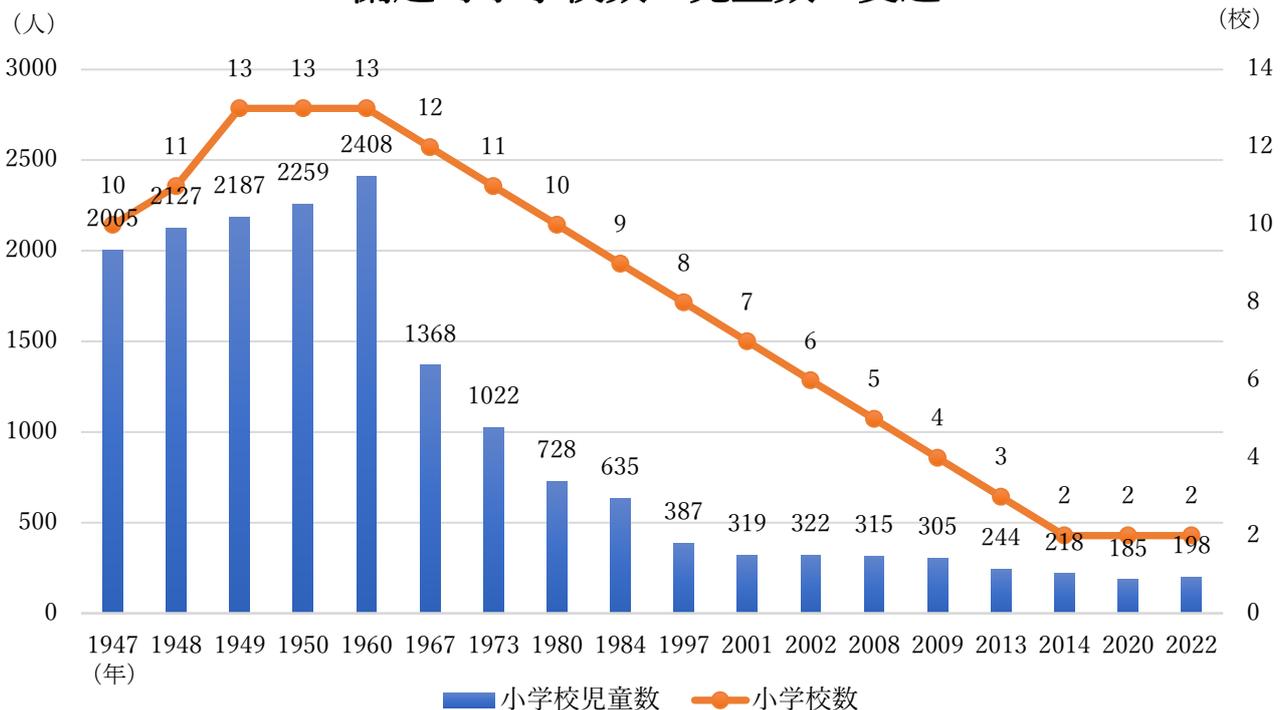
「郷土探索への道」新シリーズ準備中！

現在蘭越町にある小学校は2校（昆布小、蘭越小）、中学校は1校ですが、かつて蘭越町に小学校と中学校が最大何校あったかご存じですか？なんと小学校は13校（川上、立川、湯里、昆布、蘭越、旭台、三和、上里、御成、港、名駒、目名、田下）、中学校は6校^{*}（川上、蘭越、三和、初田、名駒、目名）もあったのです。次回から図書館便り「郷土探索の道」は、役割を終えて静かにその歴史を閉じた11校の小学校と6校の中学校を紹介する「学校編」をスタートします。第1回目は、上里小学校編です。乞うご期待！

ここで皆様にお願ひがあります。「郷土探索への道 学校編」を連載するにあたり、今は閉校となった学校の写真、資料、逸話などを募集しています。花一会図書館の職員がインタビューを行い、その内容を記事にするとともに、記録保存いたします。どんなもの、どんなことでも構ひませんので、ぜひ花一会図書館までご連絡ください。

※昭和51（1976）年度、町内の全中学校が統合され現蘭越中学校が新設された。同時に、昆布地区の子供達が通っていた「ニセコ町、蘭越町学校組合立桂中学校（ニセコ町字西富）」も閉校した。

蘭越町小学校数・児童数の変遷



今月のおすすめ本 コーナー



河崎秋子

『清浄島』

河崎秋子 著 (双葉社)

史実に基づくフィクションではあるが、寄生虫の伝播を防ぐため島の犬、猫等を全頭駆除した倫理はこの先、未知の病原体に接したときに人間そのものへも向かうのだろうか。コロナ下において、もう一つの怖い問いかけが実は隠されている。

(蘭越町 笠井三葉留)



『空をこえて 七星のかなた』

加納朋子 著 (集英社)

6つの全然テイストの違うミステリが、7つ目の話で見事に繋がって、しかも登場人物たちの人生のいろんな場面での繋がりがあっての今なんだ、という構成が見事すぎてそれ自体がミステリの解のよう。読後感の良さよ!



介護者D
河崎秋子

『介護者D』

河崎秋子 著 (朝日新聞出版)

父親を介護するために東京から戻ってきた琴美。こんなはずじゃなかった生活を送る中で、共依存の関係から次第に一人の人間同士として向き合っていく。後ろめたさと寂寥感とを引き換

えに、それぞれが自立へと向かう心情の描写が美しい。

(蘭越町 笠井三葉留)



『プチプラで「地震に強い部屋づくり」』

辻直美 著 (扶桑社)

11月、12月と蘭越でも立て続けに発生している地震。国際災害レスキューナースの著者が教える防災のコツは、死なないための部屋づくり。お金をかけずにできるのが嬉しい。「あのとき準備しておけばよかった」そんな言葉を使うことの無いように。

気になる! お金のハナシ



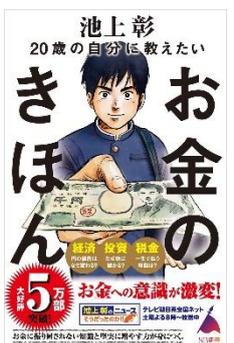
『ジェイソン流お金の増やし方』
厚切りジェイソン(ぴあ)



『60分でわかる!』
インボイス&消費税超入門
土屋裕昭 技術評論社)



『世界一やさしい株・FX』
投資信託の教科書1年生
梶田洋平(ソーテック社)



『20歳の自分に教えたきほん』
池上彰(SBクリエイティブ)



『キャッシュレス生活、1年やってみた』
美崎栄一郎(祥伝社)



『貯金すらまともできない!』
せんがこの先ずっとお金に困らない方法を教えてください!
大河内薫(サンクチュアリ出版)